

# 観光土産品の試作研究

研究員 堀之内 輝 男

## はじめに

日本の経済成長の基盤をなしているのは工業の発展であろう。生産の合理化とともに、われわれの生活も合理化の一途をたどっている今日、自然へのあこがれこのことは人間誰しもが求めていることではないだろうか。屋久杉の保存問題が強く叫ばれていることもその一端だと思われるし、是非必要なことである。

我々が日常使用している道具の中でも、自然の材料である〔木材〕を使用した製品へのあこがれは、生活が安定する程に強く要求されるものではなからうか。

近年、緑と青い空、青い海を求めて観光客が多くなるにともない、ここ数年の間に土産品加工業者も急激に殖えたが、そのほとんどが屋久杉の加工業である。屋久杉は有限の材料であることだし、今後は屋久杉にかぎらず木材の良さ（自然の味と暖かさ）を再認識いろいろな樹種の利用と品質の向上を計る必要があるようである。それと同時に近代材料であるプラスチック等の併用といったことも必要な時代ではなからうか。それぞれの材料の特徴を活かした新製品の開発と伝統的なクラフト製品の量産化につとめたいものである。

## 1. 目的

日本は歴史的にみても、木材文化の上になたって発達し今日の経済成長にいたったと云える。とりわけ日本人は特に木〔木材〕には強い愛着が本質的にそなわっていると云っても過言ではないようである。しかし産業の合理化と社会構造の複雑化に伴ない我々の生活も多様化の傾向にあり、特に都市生活については厳しいものがあるようである。このような生活の中ではややもすると本来の人間性、心の豊かさに欠けてゆく面もあるのではないだろうか。同じ食事をするにしても、より楽しく、より心の豊かさを生活の中にもりこめたら、微々たることかも知れないが観光土産品の中にもクラフト的な要素、ホルムと木材のもつ材質感にそのことを詫したい。

このようなことからデザイン研究により、既存土産品の品質向上と量産化を計るとともに、新製品の開発を行なうものである。

## 2. 試作品

- ナブキンスタンド
- ナブキンホルダー

- ナブキンリング
- ペンシルスタンド
- メモホルダー
- コースター
- レターラック
- トリベット
- レターボックス
- 書籍箱
- モビール

## 3. 使用材料

- ローズウッド
- チーク
- けやき
- 屋久杉
- 桑
- たぶ
- かや
- いす

## 4. 仕上げ

- オイルフィニッシュ仕上げ
- ラッカー仕上げ

## 5. 結果

- ナブキンスタンド

オーナメント的要素の強いものであるが、蟻組構造によるパターンの美しさと解体式による遊びのある道具として考えてみた。ローズウッドとけやきの色のコントラストと蟻組のパターンの面白さと云った点では一応所期の目的をたつたと思われるが、材質の異り過ぎる組合せの場合否によるいろいろな問題があるが、別な利用方法が考えられそうである。

- ナブキンホルダー A、B

A ローズウッドについては形の上からも、加工性の点でも一応満足な結果が得られた。

B チークについては材質は活かされたようであるが形態と加工性の点で問題が残る。

- ペンシルスタンド

材料 桑

箱物加工の試みとして、透しの面白さ、楽しさをねらいとしたもので、ペンシルスタンドの他に花器（一輪差し）としても使用できるよう中仕切は取はずし可能な構造とした、着色には初めての試みとし

て油絵具の摺込みをしてみたが、仕上り、加工性共良好であった。

○ 書類箱、レターボックス

材料 屋久杉、桑、けやき

甲板と底板に屋久杉のつき板張りしたもので、屋久杉材と異種材を併用することによって、屋久杉をより引立てることを試みたもので、一応所期の目的は達したが、異種材の選定を誤るとかえってマイナスの結果になる可能性がある。

○ コースター、トリベット

45mm角材（タル木のサイズ）から作れるものとして考えてみたもので、このことは材料の乾燥の安易さと加工性（量産）を基本としたもので、小サイズの材を有効に使えて変化に富んだ製品が考えられる。又建築材（柱）等にも応用可能である。

○ モビール

普通モビールには紙、布等軽い材料を使ったものが多く、そのような材質のものは非常に良く動くが、

この試作品については、わりに重量もあり動きは鈍いが、それだけに材質感とマッチした動きのため良い結果が得られたと思う。

考 察

試作品全体を通して感じることは、木製の場合特に材質感を強調する意味において、できるだけ単純な形態にまとめた方がより効果的のようである。このことはデコレーション的の加工の多いものより至難なことかも知れないが非常に重要な要素だと思う。

現在本県において作られている木製土産品の殆んどに感じることであるが、何となく軽い感じのものが多くようである。このことは量産だけに走り過ぎたり、形そのものにも問題がある場合も多いと思われるが、先ず消費者の立場、要求にマッチしたもの、本当に喜んで使えるもの、それには機械生産の中にも、芸術品を作る精神が先ず必要ではないかと思うし、観光土産品の中にクラフト的な要素をもちこむことが品質の向上につながることはなからうか。

## 住いのための室内用具……設計シリーズ III

研究員 楠 畑 裕 也

文化、科学、経済の高度成長による社会構造の変化に従い、生活環境が大きく変遷してきている。人口の都市集中化にともなう集団住宅地の建設、情報及び交通機関の高度、高速化、更に新しい産業の発達と企業の大規模化など社会全般の動きが人間活動を中心に組織的に開発され、新しい生活の場が造られつつある。そこで表記の研究課題のもとに従来の家具のパターンにとらわれず、その用途性を追求することによって、これからの住いに適応する新しい室内用具…すわる・ねる・おく・しまう・つるための用具…のデザインを目的とする。

この目的にそって今年度は休息をテーマにして次の二点をデザインした。

イ、休息いかたの設計と試作

ロ、スリーピングベンチの設計と試作

イ、休息いかたの設計と試作

### I 設計の目標

寝室にかぎらず居間や個室などでも簡易に休息したり或いは就寝することもできるものとする。

### I 設計の条件

1. 機能——休息の体位を考慮し起床構造としマットをダブルサイズにする。移転の合理化のため解体式にする。
2. 装飾性——室内の調和をこわさない簡易とする。

### III 設 計

設計図省略

### IV 試 作

使用例 1

